

2014年度 事業報告書

総務広報委員会 委員長
齋藤 伸輔

1. 事業内容

- (1) 会員拡大
- (2) 広報活動
- (3) 総会の設営（2月、6月、11月）
- (4) 理事会の設営
- (5) 新年例会の設営（1月）
- (6) 中間監査・会計監査の設営（6月、12月）
- (7) 第63回全国大会松山大会のLOM設営（10月）
- (8) 卒業例会の設営（12月）
- (9) LOM運営に関する研究
 - ・JCハンドブックの製作
 - ・各種セミナーの開催
 - ・運営マニュアルの運用の普及

2. 所感

本年度は一般社団法人へ移行が終わっている中で総務の担いとして、新たな制度下で組織の運営や活動を円滑に行うために、運営マニュアルの整理、周知、相談体制が必要であるとの認識に立って活動を試みました。その活動では、各セミナー（理事・正副幹事・広報）において相談窓口のお知らせを行い、セミナーでの資料、フォーマット記入例の読みやすさを心がけました。しかしその後の展開として、各正副幹事からだけではなく各委員会メンバーへの周知について、総務広報委員会からの直接的なアプローチが出来ておらず、結果としてはLOM全体へ徹底が疎かになってしまいました。一方、広報の担いについても、広報セミナーを実施することはできましたが、その後の総務広報委員会からの直接的なアプローチが出来ておらず、結果としては同様なものとなってしまいました。各委員会と連携し発信していくための組織づくりを総務広報委員会の中で完成・機能させることが出来なかったことが悔やまれます。

LOMの中心となって、全体の活動を見渡せることができ、それを支えることに誇りを持てる委員会の魅力を委員会メンバーに伝えられなかった、委員長としての力量不足を痛感しております。

しかしながら、新たな試みの中で本年度実行できたものもあります。理事会で提案がありました、事業予算確保の観点から会場費の圧縮を目的とした長岡グランドホテルを移動しての理事会の設営とその備品等の整備を行いました。また突発的ではありましたが、会員の除名に関する決議について臨時理事会の開催と、臨時総会での議決権数の確保についての実務を経験することが出来ました。

総務・広報ともにその性質を考慮すると、前年度からの早期の準備が必須です。その点において効率的あるいは効果的に両者を並行して進めていくことには、単年度制に捉われず継続してマニュアルを構築していく部分を設ける等の工夫と引継ぎ会議の実施等、一層の試行錯誤を要するものと考えます。是非とも、次年度以降にご検討いただければ幸いです。

末筆になりましたが、委員長を拝命しながら6月の理事会以降不在のままで委員会の統括と運営を、大谷実副委員長、伊丹正和副委員長、諸橋賢二運営幹事、星野眞樹会計幹事に委ねざるをえない状況となり、委員会スタッフには大変な苦勞をお掛けいたしました。また、佐田直人理事長を始め、LOMスタッフ、担当スタッフの高頭明紀夫事務局長、長岡JCメンバー、総務広報委員会メンバーにはご心配とご迷惑をお掛けいたしました。そのような状態にありましても皆様にしっかりと支えられて委員長として卒業できましたことは本当に嬉しく、この場をお借りしまして心より感謝を申し上げます。